

栗原市教育研究センター通信

第7号 平成29年12月発行

幼保一体施設で3年保育開始

【栗駒幼稚園】

栗原市立栗駒幼稚園は平成28年度に2つの幼稚園と2つの保育所、子育て支援センターが一体化した施設として開園しました。

平成27年度までは2年保育だったのですが、幼稚園と保育所が同一敷地内にある幼保一体型の幼稚園としてスタートし、今年度は全園児168名で、3歳児3クラス、4歳児2クラス、5歳児2クラスの計7クラスで運営しています。

新しく幼保一体園になってよかったことについて園長先生は、「幼稚園と保育所の良いところを活かした施設で、子ども達の成長を0歳～5歳まで継続して見守ることができ、保護者との信頼関係も築きやすいと感じています」とお話をされています。

栗駒幼稚園では、平成29年度栗原市幼稚園研究会公開園として、園内研究に「思いやりのある子どもを育てる」を主題として取り組んできたそうです。年齢ごとに思いやりの姿を捉え、幼児がいろいろな友達がいることに気づき、一緒に過ごす楽しさを味わい、友達と思いを共有できるような環境構成を考えたり、教師が思いやりのある行動のモデルとなれるように援助を工夫したりすることで、思いやりのある子どもが育つのではないかと実践を重ねてきました。



保育に対して忌憚のないご意見をたくさんいただいたとのことです。その中で協働保育に対するの気づきが見られたことから、皆様のご意見を活かして、今後の園内研修のあり方を探っていきたいとお話いただきました。若い先生方が多い中、園内研修での学び会から、園全体での遊びの質を高めようとする意欲的な幼稚園でした。

【お遊戯会の練習の前に真剣に

先生の話をしている子ども達】



「園名が変わりました」

【志波姫幼稚園】

栗原市立志波姫幼稚園も平成 28 年度に幼稚園と保育所、子育て支援センターが一体化した施設として開園しました。昨年 3 月まで「ふたば幼稚園」として、市内の 3 年保育の先進園として保育を進めてきた幼稚園です。今年度は全園児 128 名で 3 歳児 2 クラス、4 歳児 2 クラス、5 歳児 2 クラスの計 6 クラスで運営しています。

幼保一体園の利点を生かした保育のメリットは、「慣れている施設で、継続して保育が行えること」と園長先生。建物の構造上、幼保お互いの保育がいつでも見え、連携しやすいため幼稚園と保育所を区別しないで、両方の情報を常に共有するようにしているとのこと。日々心がけていることは、園だよりや学年だよりの工夫をして、保護者との連携を図ることはもとより、保護者に対して、できるだけ多く触れ合えるようにしていることと、地域との連携も大切にしていることで、運動会の際には、志波姫十文字地区婦人部からお手玉を 600 個寄贈していただき、玉入れ競技に使うことができたとお話していただきました。



「先生の話聞いて 自分の思いを話せる子どもたちを育てます」

平成 30 年度は、宮城県国公立幼稚園・こども園の公開園になります。昨年度の課題から、今年度は各年齢における発達段階を踏まえ、教師が人的、物的環境の構成をさらに工夫することが必要だと考え、研究主題を「言葉による伝え合いができるための環境構成と援助の工夫」として園内研究を進めてきました。園長先生のリーダーシップのもと、教師全員が研究



保育を行い、保育の質の向上にも意欲的に取り組んでいます。

研究センターとしても、研究保育の参観や事前・事後検討会に参加し、お手伝いをさせていただいています。幼稚園教育要領が平成 30 年度から完全実施されることもあり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」についても一緒に学び会って、栗原市の幼稚園教育の質の向上につなげていければと思います。

【元気に挨拶をしてくれた、預かり保育の子ども達】

発行責任者
栗原市教育研究センター
所長 原 吉宏
栗原市金成沢辺西大寺 1-5
TEL/FAX 42-1157
教育相談専用電話 42-1230